

2021年3月期 第1四半期 決算概要

2020年8月6日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹



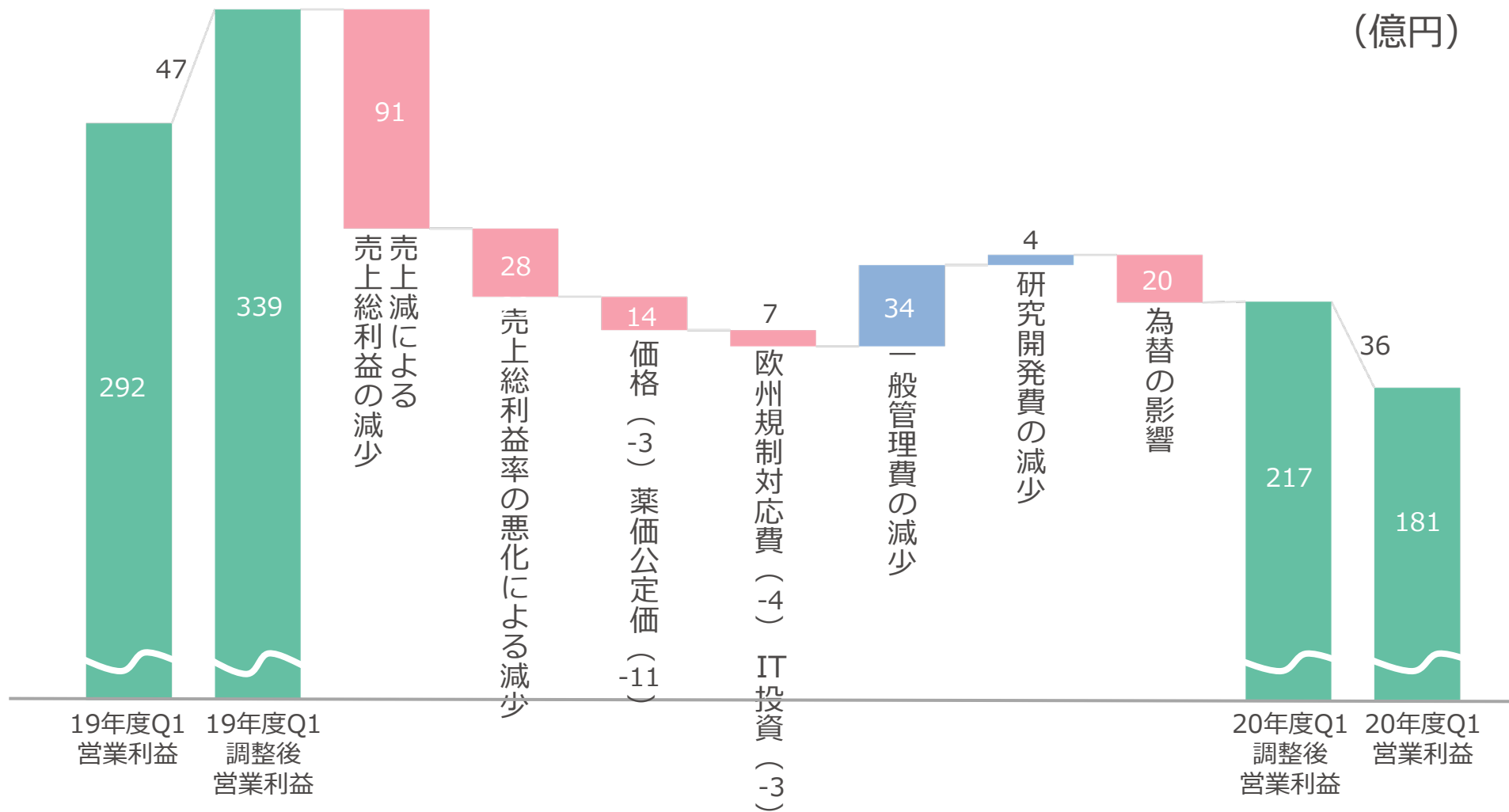
心臓血管が新型コロナの影響を受けるも、他カンパニーで緩和 (億円)

	19年度Q1	20年度Q1	増減率	為替除く増減率
売上収益	1,525	1,313	-14%	-11%
売上総利益	852 (55.8%)	689 (52.5%)	-19%	-15%
一般管理費	445 (29.2%)	401 (30.5%)	-10%	-8%
研究開発費	118 (7.8%)	112 (8.5%)	-6%	-4%
その他収益費用	4	5	-	-
営業利益	292 (19.1%)	181 (13.8%)	-38%	-31%
調整後営業利益	339 (22.3%)	217 (16.5%)	-36%	-30%
税引前利益	288 (18.9%)	179 (13.6%)	-38%	
当期利益	228 (14.9%)	140 (10.7%)	-39%	

期中平均レート	USD	110円	108円
	EUR	123円	119円

- 売上収益：心臓血管は新型コロナの影響を受けるも、ホスピタルと血液・細胞テクノロジーへの影響は軽微
- 調整後営業利益：売上減少による減益。研究開発費の抑制は限定的としながらも、一般管理費は抑制し前年度比で減少

調整後営業利益増減分析

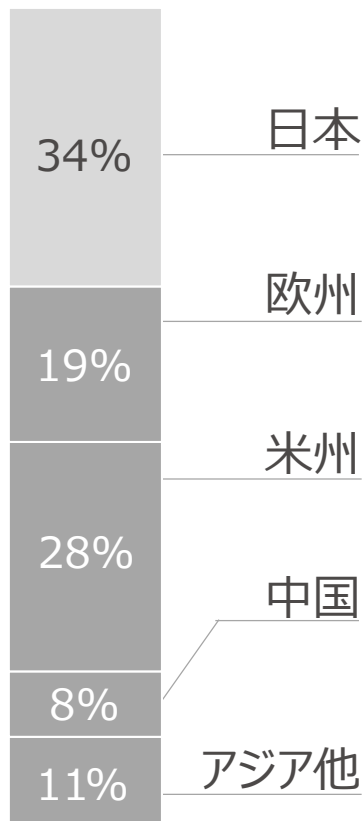


地域別売上収益

20年度Q1
19年度Q1

売上収益

100% = 1,313億円



売上収益前年比較

金額(億円)	増減率	コメント
() 内は為替影響除く		
443 460	-4%	心臓血管において新型コロナの影響を受けるもホスピタルでは体温計や消毒剤等の需要増
255 300	-15% (-12%)	心臓血管は二桁減収。ホスピタルと血液・細胞テクノロジーは一桁後半から二桁伸長と堅調
363 460	-21% (-18%)	心臓血管は二桁減収も、ホスピタルは中南米が牽引し二桁に近い伸長
102 136	-25% (-21%)	全般的に回復傾向も、ニューロ代理店の受注タイミングの影響を受ける
151 169	-11% (-7%)	全カンパニーにおいて、新型コロナの影響は欧米と比較し軽度

カンパニー別売上収益

20年度Q1
19年度Q1

売上収益

100% = 1,313億円

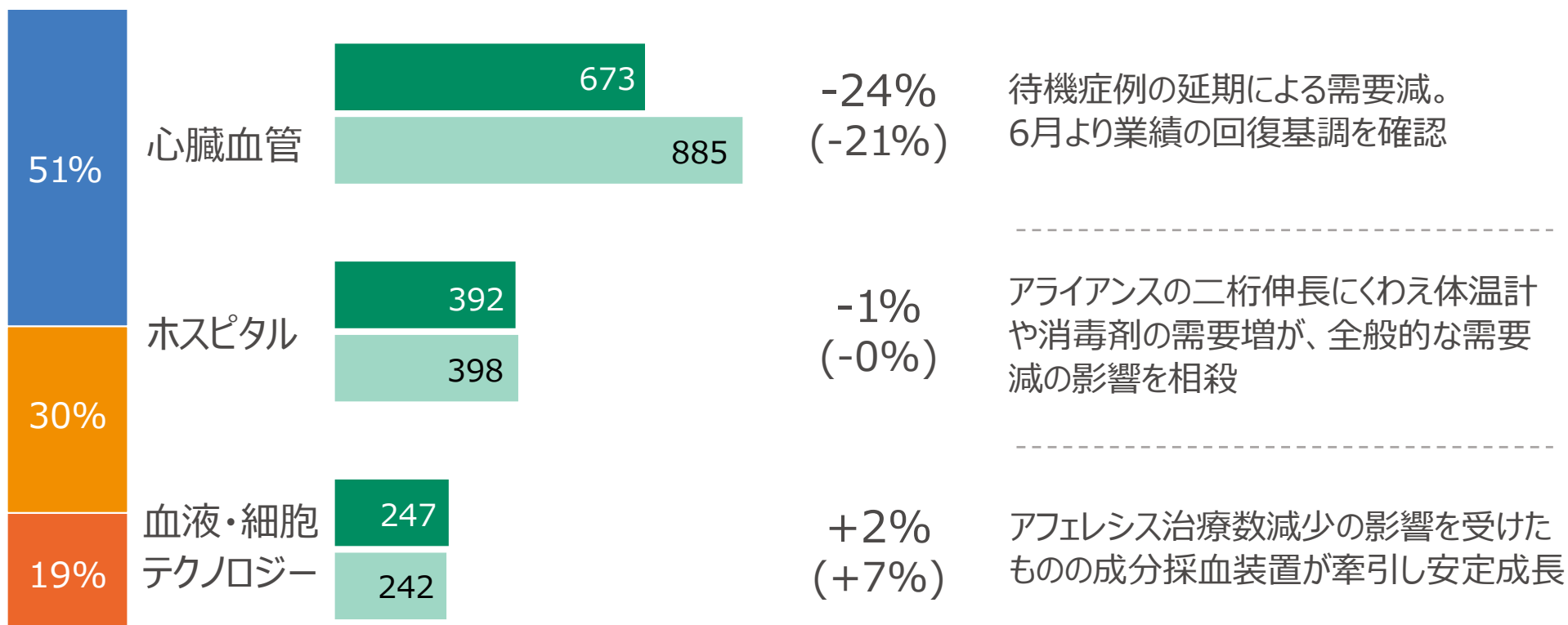
売上収益前年比較

金額(億円)

増減率

コメント

() 内は為替影響除く



心臓血管：想定範囲内の新型コロナの影響

(億円)

	19年度Q1	20年度Q1	増減率	主なトピック	金額
	() 内は為替影響除く				
売上 収益	885	673	-24% (-21%)	TIS : 製品群全般に需要減の影響 ニューロ : 脳動脈瘤治療数の減少 CV : 需要減の影響を 日本における装置売上げが緩和 血管 : 人工血管、ステントグラフトともに需要減	-140 -44 -18 -10
調整後 営業 利益 (率)	245 (28%)	124 (18%)	-49% (-45%)	売上減による減益。安定供給の為の在庫積上げにより製造原価の低減効果があり、減益の一部を緩和	

ホスピタル: 費用をコントロールし収益性を維持

(億円)

	19年度Q1	20年度Q1	増減率	主なトピック	金額
--	--------	--------	-----	--------	----

() 内は為替影響除く

売上
収益

398

392

-1%
(-0%)

医療器	: 診療制限の影響	-15
医薬品	: 輸液剤の減少を疼痛緩和がカバー	-2
DM・ヘルスケア	: 体温計等ヘルスケア製品の需要増	+5
アライアンス	: 海外が牽引し二桁伸長を維持	+7

調整後
営業
利益
(率)

52

52

-1%
(+1%)

売上減にくわえ海外工場におけるロックダウンによる生産稼働率の低下の影響があったものの、費用コントロールにより収益性維持

(13%)

(13%)

血液・細胞テクノロジー：増収増益を達成

(億円)

	19年度Q1	20年度Q1	増減率	主なトピック	金額
() 内は為替影響除く					
売上 収益	242	247	+2% (+7%)	血液センター : 成分採血装置の新ソフトウェアによる牽引。新型コロナ回復期血漿に向けた需要増 アフレスिस治療 : 待機症例の延期による需要減	+16 -7
調整後 営業 利益 (率)	26 (11%)	39 (16%)	+48% (+71%)	製品ミックスによる売上総利益増に加え、費用コントロールが寄与し大幅増益	

主なトピックス

全社

- 新型コロナウイルス感染症対策に合計240万米国ドルの支援
- 欧州医療機器規則（EU-MDR）の認証初取得

心臓血管

- オープンステントグラフト「Thoraflex Hybrid」が米国でブレークスルーデバイスに指定



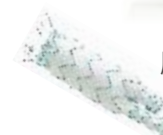
オープンステントグラフト
「Thoraflex Hybrid」

- 生分解性薬剤溶出型ビーズ「BioPearl」がCEマーク認証取得



生分解性薬剤溶出型ビーズ
「BioPearl」

- 米国で腹部大動脈ステントグラフト「TREO」が販売承認



腹部ステントグラフト
「TREO」

ホスピタル

- 消毒しやすい体温計を発売



オープン形状の
収納ケース付き体温計

- テルモ山口で製造するアダリムマブのバイオシミラーに関し日本のGMP適合取得

血液・細胞 テクノロジー

- 血中サイトカインの減少を目的に、遠心型血液成分分離装置が米国で緊急使用許諾

- 病原体低減化技術、新型コロナウイルスへの有効性証明



病原体低減システム
「Mirasol」



遠心型血液成分
分離装置
「Optia」

20年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ
心臓	ステーラブルシース	日	
	PTCAバルーン(Essen社製)	中	
イメージング	IVUSカテーテル	日	済み
オンコロジー	生分解性薬剤溶出型ビーズ	欧	
	末梢血管塞栓用プラグ	米	
脳	血流改変ステント	日米	済み
	バルーン付きガイドカテーテル	欧	
	頸動脈ステント	日	
	袋状塞栓デバイス (Woven EndoBridgeデバイス)	日	
カーディオ バスキュラー	次世代人工肺	日	済み
	人工心肺装置(再出荷)	日	済み
	オフポンプ用臓器固定器具	グローバル	日米亜： 済み

領域	製品	地域	ローンチ
血管	腹部ステントグラフト	米	
医療器	次期シリンジポンプ	日	
	次期針刺し防止機構付留置針	日	
	Open-TCI用シリンジポンプ	欧亜	欧：済み
医薬品	強オピオイド鎮痛薬	日	済み
DM・ ヘルスケア	次期持続血糖測定器	日	
	血糖測定システム	日	
	次期体温計	日	済み

20年度業績予想の考え方

- 売上は、Q1で底打ちし下期には回復基調へ。新型コロナ第2波の影響は不透明であるため盛り込んでいない
- 一般管理費は一定の抑制を効かせつつ、早期回復を図るべく業績を見極めながら適切に投下
- 研究開発費は原則として活動レベルを下げることなく投資継続
- Q1にBCP目的で積み上げた在庫はQ2以降、適正水準へ生産稼働レベルを調整

20年度業績予想

(億円)

	19年度 実績	20年度 業績予想	増減率 (為替除く増減率)
売上収益	6,289	6,000	-5% (-2%)
営業利益 (率)	1,106 (17.6%)	850 (14.2%)	-23% (-20%)
調整後営業利益 (率)	1,250 (19.9%)	1,030 (17.2%)	-18% (-14%)
当期利益	852	650	-24%

	(実績)	(予想)
為替レート	USD 109円	105円
	EUR 121円	120円

┃ 配当に関し、5月決算時に発表した予想から変更なし

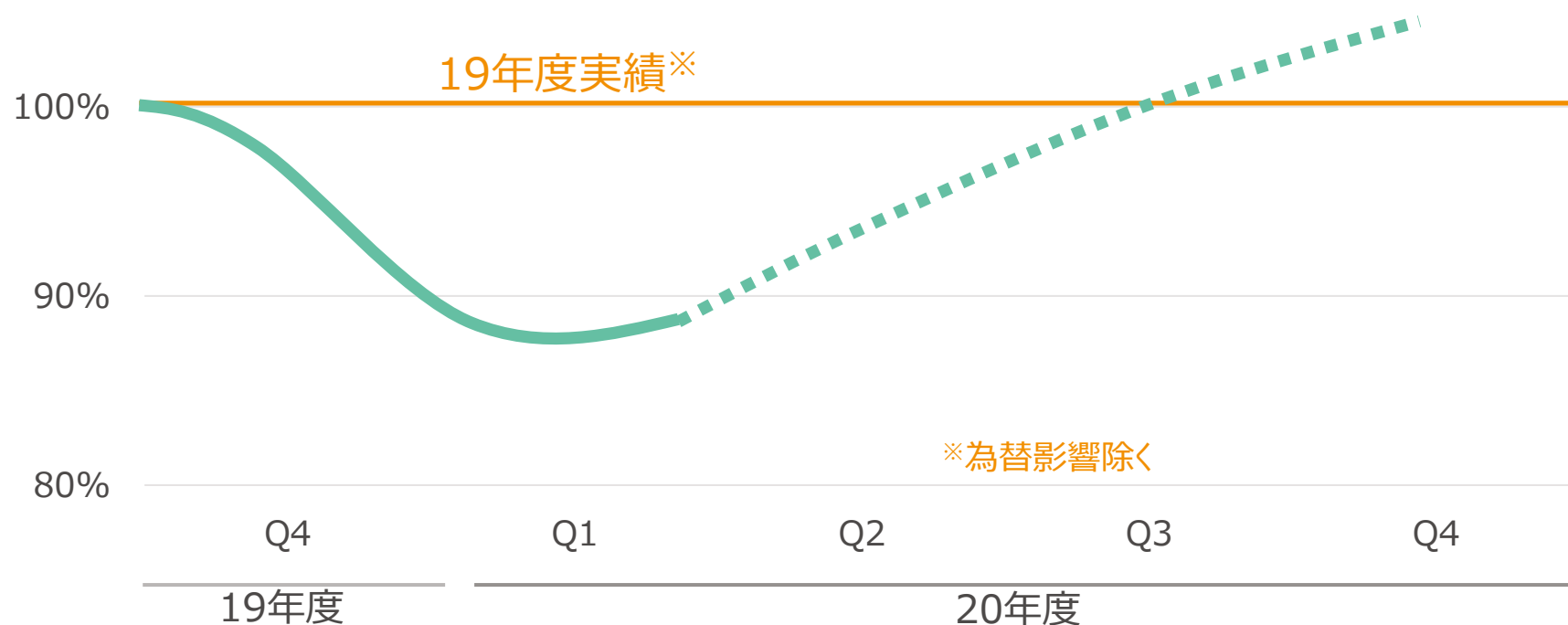
20年度業績予想

(億円)

	売上収益		コメント	
	金額	増減率		
	() 内は為替影響除く			
心臓血管	20年度予想	3,220	-8% (-5%)	待機症例の延期による需要減を見込むも下期は回復傾向
	19年度実績	3,506		
ホスピタル	20年度予想	1,720	+1% (+1%)	診療制限の影響はあるも、アライアンス等の成長により相殺。慢性疾患向け製品多く安定的
	19年度実績	1,710		
血液・細胞テクノロジー	20年度予想	1,060	-1% (+2%)	血液バッグの売上減を、成分採血装置の拡大により相殺
	19年度実績	1,072		

20年度業績予想 売上四半期推移イメージ

Q1に底打ちし下期より前年度比プラス成長へ回帰



参考資料

事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	109 (-10%)	564 (-23%)	167 (-21%)	244 (-25%)	80 (-28%)	73 (-14%)	673 (-21%)
うちカテーテル※	78 (-15%)	462 (-24%)	136 (-22%)	192 (-26%)	74 (-30%)	60 (-15%)	540 (-23%)
ホスピタル	308 (-1%)	84 (+3%)	23 (+10%)	21 (+20%)	4 (-19%)	35 (-6%)	392 (-0%)
血液・細胞テクノロジー	25 (-0%)	222 (+8%)	64 (+17%)	98 (-0%)	17 (+38%)	43 (+7%)	247 (+7%)
合計	443 (-4%)	870 (-15%)	255 (-12%)	363 (-18%)	102 (-21%)	151 (-7%)	1,313 (-11%)

※TIS事業とニューロバスキュラー事業の合計
() 内は為替影響除く前年比伸長率

販管費

(億円)

	19年度Q1	20年度Q1	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	219	224	+5	+2%	+5%
販促費	49	20	-28	-58%	-57%
物流費	35	33	-2	-5%	-2%
償却費	45	46	+1	+1%	+4%
その他	97	78	-20	-20%	-19%
一般管理費計	445 (29.2%)	401 (30.5%)	-44	-10%	-8%
研究開発費	118 (7.8%)	112 (8.5%)	-7	-6%	-4%
販管費合計	564 (37.0%)	513 (39.0%)	-51	-9%	-7%

四半期の動き

(億円)

	19年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	20年度Q1 (4-6月)
売上収益	1,525	1,548	1,629	1,588	1,313
売上総利益	852 (55.8%)	863 (55.8%)	872 (53.5%)	853 (53.7%)	689 (52.5%)
一般管理費	445 (29.2%)	451 (29.1%)	472 (29.0%)	477 (30.1%)	401 (30.5%)
研究開発費	118 (7.8%)	125 (8.1%)	127 (7.8%)	136 (8.6%)	112 (8.5%)
その他収益費用	4	13	-2	4	5
営業利益	292 (19.1%)	300 (19.4%)	271 (16.6%)	244 (15.3%)	181 (13.8%)
調整後営業利益	339 (22.3%)	331 (21.4%)	314 (19.3%)	266 (16.7%)	217 (16.5%)

四半期	USD	110円	107円	109円	109円	108円
平均レート	EUR	123円	119円	120円	120円	119円

調整後営業利益：調整額

(億円)

	19年度Q1	20年度Q1
営業利益	292	181
調整① 買収無形資産の償却費	+40	+35
調整② 一時的な損益	+8	(※) +1
調整後営業利益	339	217

※ 調整項目

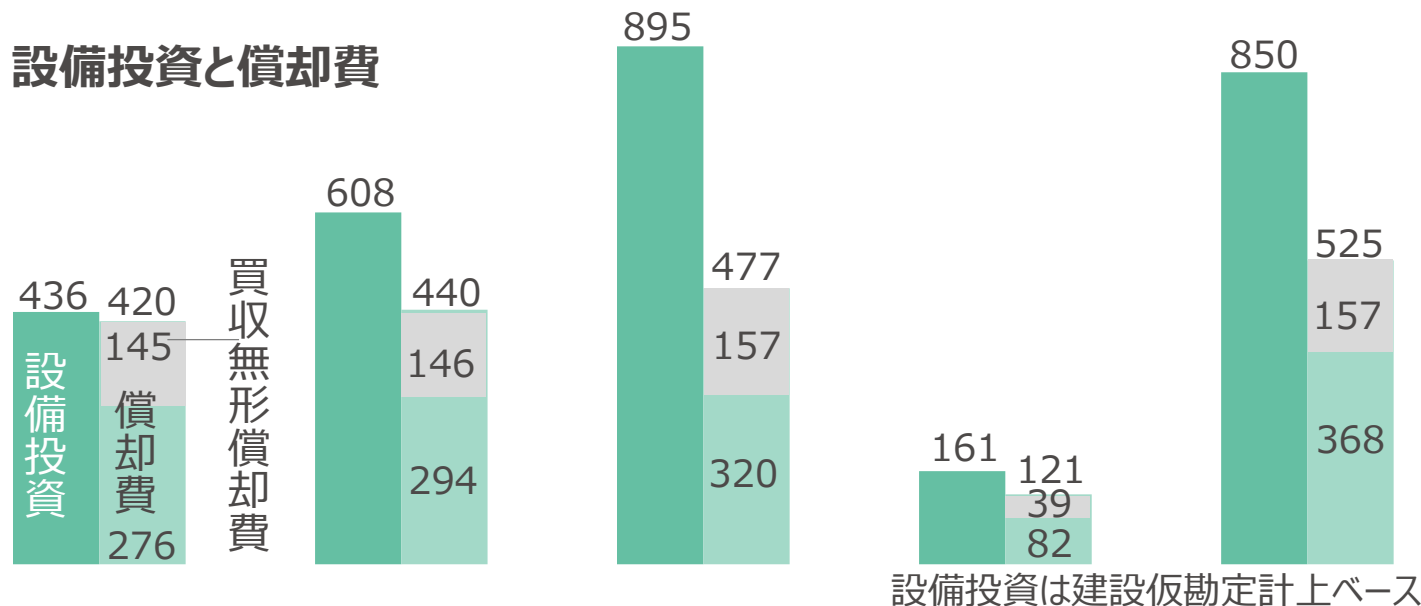
- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

(※)20年度Q1 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編コスト	+2
その他	-1

設備投資、償却費、研究開発費

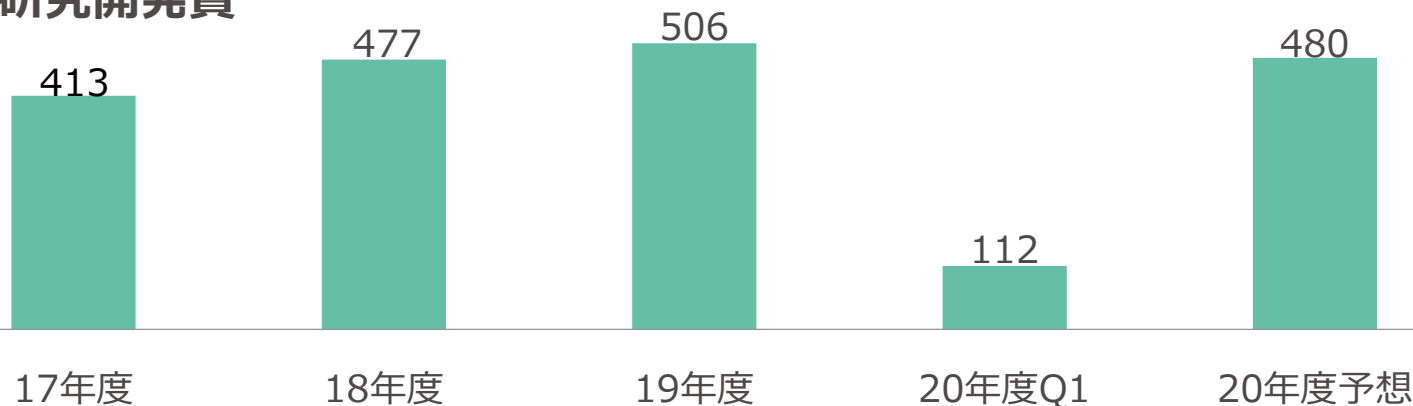
(億円)

設備投資と償却費



- 19年度・20年度実績・予想にはリース償却 (IFRS16)含まず
- 20年度は、増産設備、生産スペース、R&D投資、IT投資を拡大

研究開発費



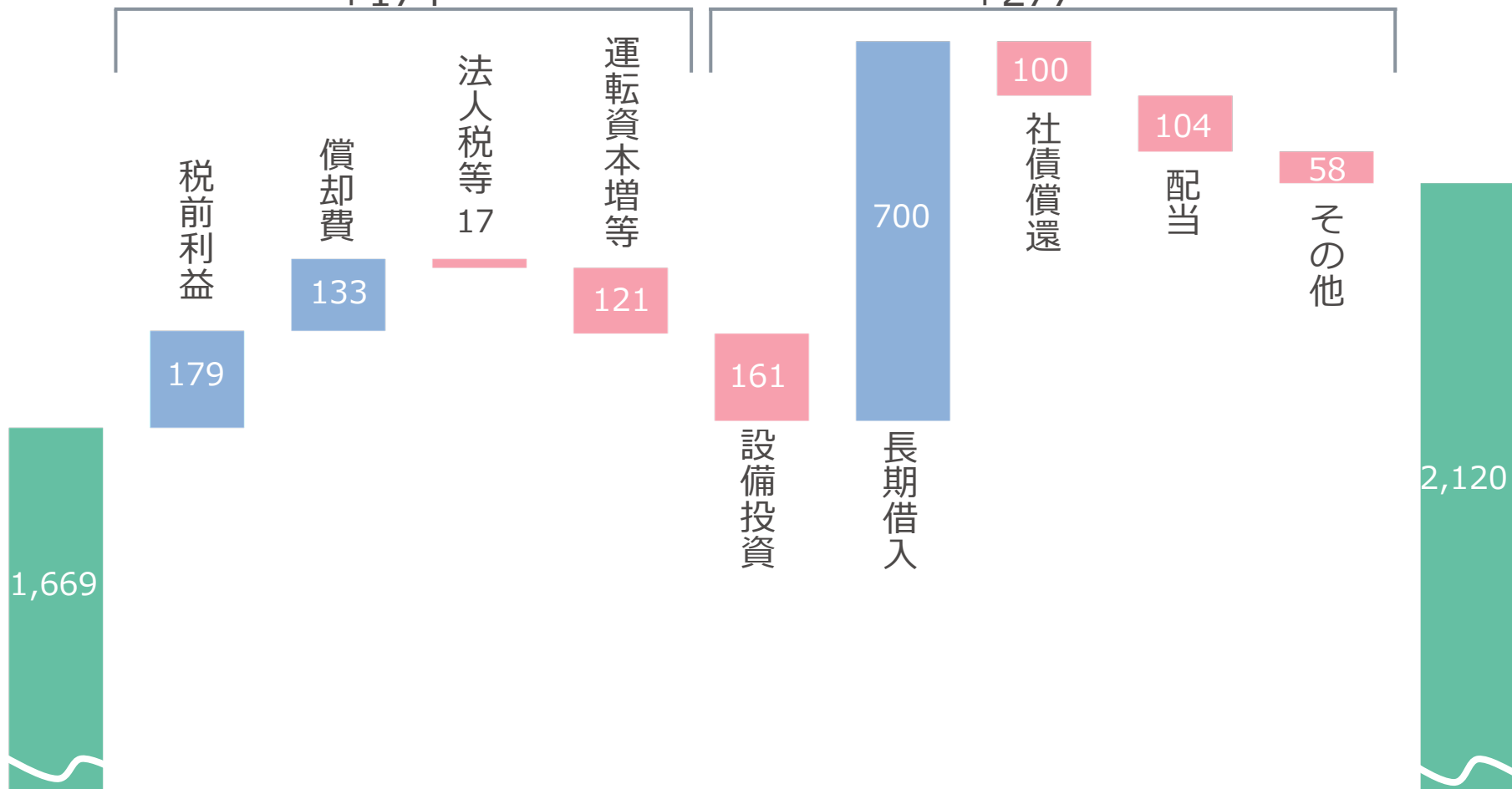
- 主にカテーテル、ニューロ、血液・細胞テクノロジーの開発活動を促進
 - 開発費の資産化は設備投資に含む
- 18年度 : 24億円
 19年度 : 48億円
 20年度Q1 : 13億円
 20年度予想 : 54億円

キャッシュフロー

営業キャッシュフロー
+174

投資・財務キャッシュフロー
+277

(億円)



19年度末
現預金残高

設備投資は建仮計上ベース
期末現預金残高はB/Sの「現金及び現金同等物」と整合

20年度6月末
現預金残高

為替感応度

1 円の円安に対しての年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	24
調整後営業利益	0	5	13

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	20	36

転換社債の状況

社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,912	2,486	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,912	2,486	約26百万株
計	1,000				約52百万株

転換状況 (2020年7月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500億円 (100.0%)	26百万株 (3.4%)
2021年12月満期	462億円 (92.4%)	24百万株 (3.2%)
合計	962億円 (96.2%)	50百万株 (6.6%)

転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況：5百万株(2020年7月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比0.7%)

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。